

## X 久喜市あゆみの郷 事業報告

令和4年度事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

### 1 実施事業

#### (1) 定員と現員

令和5.3.31現在

事業名	定員	現員
生活介護	定員15名	17名(男性12名、女性5名)
就労継続支援B型	定員15名	18名(男性10名、女性8名)

#### (2) 利用者の状況

##### ア 年齢構成

	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	平均
生活介護	0	5	5	3	1	3	40.5歳
就労継続	1	6	6	2	2	0	34.2歳
計	1	11	11	5	3	3	37.3歳

##### イ 障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	未判定	計
生活介護	0	0	3	5	6	3	0	17人
継続B型	0	2	6	4	0	0	5	17人
計	0	2	9	9	6	3	5	34人

##### ウ 療育手帳の所持状況

	㊤	A	B	C	なし	計
生活介護	9	5	3	0	0	17人
継続B型	1	7	6	3	0	17人
計	10	12	9	3	0	34人

#### (3) 職員体制

法定の人員配置基準を上回る職員配置を行い、利用者の支援を行いました。今年度は生活介護、就労継続B型の両事業に主任を配置しました。両事業に主任を配置することにより、支援内容の充実や事業間の連携強化につながりました。

## 2 重点実施事項

### (1) 虐待防止の徹底

- ア 利用者1人ひとりの気持ちを汲み取るため、利用者と向き合う時間を作りました。うまく言葉に表すことが難しい人には、ノートや日記を活用し、職員との信頼関係を築くことで、徐々に気持ちを表現できるようになりました。
- イ ケース会議や虐待防止研修に参加したことにより、ケースの理解や権利擁護意識の向上につながりました。また、毎日の夕会にて1日を振り返り、適切な支援が行えていたかどうかについて話し合いました。
- ウ 虐待防止のセルフチェックシートを活用し、日々の支援を振り返りました。また、個々の支援を全体で話し合うことで、自分の支援を見つめ直す機会とな

り、支援の質の向上につながりました。

エ 定期的な面談を実施し、職員が日々抱えている悩みや困り事等を話し合いました。特に対応の難しい利用者の支援方法に対する悩みが多く、その悩みを全体で共有し、孤立感のない環境を作ることができました。

## (2) 支援力の向上

ア 強度行動障害支援者養成研修（基礎研修・実践研修）に職員 2 名が受講し、行動障害のある利用者に対しての支援について学びました。障害特性を学ぶことで、支援に対する考え方の幅が広がりました。

イ 朝会、夕会を通じて、利用者の健康状態や情緒の様子等、情報の共有化を図りました。また、職員会議や事業別会議等で個々の利用者の支援方針を検討し、統一した支援が行えるように努めました。

## (3) 感染予防対策

ア 日々の体調管理、館内の消毒、ワクチン接種等、感染防止策を講じたことで、感染拡大を防ぐことができました。

イ 家族と密に連絡を取り合い、利用者、家族の体調不良等の情報を早期に集めることで、外部からのウイルスの侵入を防ぎました。

ウ 定性抗原キットを職員に配布し、体調がすぐれない時には、速やかに検査ができるように配慮しました。

## 3 具体的取組み

### (1) 利用者支援（生活介護・就労継続支援B型 共通事項）

#### ア 日常生活支援

(ア) 利用者の自宅での様子を把握するよう努め、細かな変化にも対応しました。自宅でのトラブル等の情報を把握することにより、施設での活動内容に反映させ、落ち着いて過ごせるように工夫しました。

(イ) 食事、歯磨き、身だしなみなど、習熟できるよう生活面での支援を行いました。また、歯磨き介助においては、口腔内の状態を確認することで、情緒の乱れの原因となる口内炎や虫歯等を早期発見することができ、落ち着いた生活につなげることができました。

#### イ 社会生活支援

(ア) クラブ活動・行事等に関しては、感染予防を優先とし、実施を断念しました。利用者からは、外出等の要望はありますが、引き続き感染状況を確認しながら実施の有無を判断していきます。

(イ) 地域行事や利用者部会への参加は、新型コロナウイルス感染症のため、中止となり参加できませんでした。

(ウ) 利用者自治会活動では、自治会長を中心に活発な意見交換がありました。作業中の約束事や休み時間の過ごし方等、利用者が主体的に考えた意見が多くあり、自ら解決策を模索する様子が見られました。

(エ) グループホームでの生活を希望する人には、相談支援センターの協力を得ながら、希望する生活への道筋を模索しました。

#### ウ 健康管理に関する支援

(ア) 毎週看護師により体重測定やバイタルチェックを行い、些細な変化にも対応

できるよう心掛けました。心配なことがあれば、囑託医や家族に連絡し、対策を講じました。

(イ) 高齢化や障害の重度化により嚥下機能が低下してきている人に対しては、刻み食を提供し、安全に食事が食べられるよう改善しました。刻み食に変更したことにより、利用者は食事時の咽込み等が少なくなり、スムーズに食事ができるようになりました。

(ウ) 健康診断は、1月、2月、3月に分散し実施しました。また、結果を家族に渡し、医師から所見のあった人に対しては、再検査や通院等を提案しました。

## エ 各事業の支援

### (ア) 生活介護事業

#### ① 日常生活支援

本人の意思を尊重しながら、室内作業、缶・ペットボトルのリサイクル作業、農耕作業と、いくつかの作業を提供し、活動がマンネリ化しないよう内容を工夫しました。

#### ② 作業活動支援

(ア) 作業活動への参加が難しい人には無理強いせず、その日の体調に合ったプログラムを検討し、作業以外の活動内容を提供しました。

(イ) 生活介護では毎月作業工賃を支給しており、今年度の平均工賃は3,873円でした。

#### ③ 余暇支援

人込みの少ない、季節の移ろいが感じられる場所を選び外出しました。また誕生日にはテイクアウトにて希望の昼食を食べました。

### (イ) 就労継続支援B型

#### ① 社会生活支援

委託業者からの内職作業と、公共施設等の清掃業務を中心に行いました。内職作業では個々に適した作業工程や役割を負うことにより、作業への参加意欲が高まりました。

#### ② 就労習慣の支援

鷺宮東コミュニティーセンター内の「コミュニティーレストラン きっちゃん・こすもす」のホールで実習をしています。接客を行うことにより、地域の人たちとの繋がりも増え、やりがいを持って実習を行えました。

#### ③ 工賃向上の支援

コロナ禍でも一定の受注があり、作業種の単価を上げる交渉なども行い、毎月の平均工賃は13,298円でした。

#### ④ 就労支援

就職を希望する人に対して、支援センター等の関係機関と連携をとり、本人に適した就職先を探しました。一人の利用者が、大宮のホテルの清掃業務の実習を行いましたが、本人の障害特性と会社の環境が合わず、就職には結びつきませんでした。今後も一般就労に向けて、実習等继续进行していきます。

## (2) 働きやすい職場づくり

### ア 情報の共有

正規職員、契約職員、短時間契約職員との情報共有の方法として、書面だけでなく、話し合う時間を設けました。短い時間でも、その日の課題や連絡事項を対面にて行うことで、情報の洩れ等を解消することができました。

イ 心身の健康維持

希望の休みや連休が取得できるよう、年次有給休暇取得の促進に努め、1人平均13日の年次有給休暇を取得することができました。

ウ ICTを活用した記録、情報の管理

ICTを活用した記録、情報の管理については、専門的な知識を持つ職員が少なかったため、実施を断念しました。

(3) 地域交流

ア 地域行事・あゆみの郷まつりは、新型コロナウイルス感染予防の為、自粛し取り止めました。

イ 施設の前にアルミ缶置き場を設置していましたが、ゴミの不法投棄があり、やむなく撤去しました。このままりサイクル活動は減少してしまうかと思われましたが、地域の人たちが声をかけてくれて、施設の中まで缶やペットボトルを運んでくれるようになりました。

ウ ボランティアの受け入れは、感染防止対策から施設内には入らず、施設外で行われる植栽や畑の管理を依頼しました。1年通して管理してもらい、季節に合った花や植物を育ててくれました。

エ 社会福祉士実習は、感染防止策を講じながら受け入れました。

(4) 事業運営

事業収益の向上

ア 新型コロナウイルスの感染状況も落ち着いてきたことから、昨年度よりも継続して通える利用者が増え、利用率も生活介護事業、就労継続支援B型事業共にアップし増収に繋がりました。

イ 新たな作業種を増やす為、3つの企業と交渉し、単価の良い作業種を開拓することができました。作業の効率化を進めながら、工賃の向上に繋がりました。

ウ 支援センターや特別支援学校と密に連絡をとりあい、新たに新規利用者2名の契約に結び付くことができました。